

【平成 27 年度 公益社団法人全国公民館連合会 事業報告書】

I 公民館の充実発展に関する事業

【公民館研究集会・大会等の開催】

「全国公民館研究集会」および 7 地域区分(北海道、東北、関東・甲信越・静、東海・北陸、近畿、中国・四国、九州)ごとの「ブロック公民館大会」を各地で開催した。公民館に勤務する全国の職員等を中心に、7,153 名が参加し、地域社会の現代的課題への対応などのテーマで事例発表や討議および大学教授等の研究者の講演等を行い、公民館機能を向上させることをもって地域社会の健全な発展を図った。

今年度の開催実績は以下の通り。

《今年の開催実績①(全国公民館研究集会)》

第 37 回全国公民館研究集会(鳥取県)／平成 27 年 10 月 15～16 日

《今年の開催実績②(ブロック公民館大会)》

地区	会期	主会場	参加者数
北海道	10/1～2	北海道恵庭市	130 人
東北	10/1～2	山形県鶴岡市	627 人
関東・甲信越・静	11/14	東京都小平市	591 人
東海・北陸	9/10～11	富山県富山市	1,477 人
近畿	11/19～20	京都府京都市及び長岡京市	540 人
中国・四国	10/15～16	鳥取県鳥取市	2,071 人
九州	8/26～28	長崎県長崎市	1,717 人
合計			7,153 人

※中国・四国ブロック大会は全国公民館研究集会同時開催。

【全国公民館セミナーの開催】

各都道府県を代表する公民館長を中心に 76 名が参加。今年度は以下に記載したプログラムで実施。公民館の機能充実に必要なことを習得し、各地域の公民館の活動にフィードバックすることで、公民館機能を向上させることをもって地域社会の健全な発展を図った。

開催期日／平成 28 年 1 月 6～8 日

開催場所／国立オリンピック記念青少年総合センター

参加人数／76 名

《プログラム内容》

	内容
1 日目	<p>【シンポジウム】 コミュニティからの地方創生－公民館の新しい役割を考える－</p> <p>《ファシリテーター》村松真貴子（公益社団法人全国公民館連合会／理事） 《ファシリテーター》牧野 篤（東京大学大学院教育学研究科／教授） 《ゲスト》谷合俊一（文部科学省生涯学習政策局／社会教育課長） 《ゲスト》小山竜司（前まち・ひと・しごと創生本部事務局／参事官） 《ゲスト》岩本 悠（島根県教育庁／教育魅力化特命官） 《ゲスト》白戸 洋（松本大学総合経営学部観光ホスピタリティ学科／教授） 《ゲスト》OIDE 長姫高校生（長野県飯田市）、松本大学生</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>対談／谷合俊一 × 村松真貴子 公民館や社会教育について、公民館運営はどのような方向に向かっているか、そして、文部科学省が特に力を入れていることについて語る。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>コーディネーター／白戸 洋（松本大学／教授） プレゼンテーション／長野県飯田市 《若者自ら取り組む「地域人教育」》 「地域人教育」は、高校と公民館が協働で、子どもたちを地域で育てようとする取組。学校で学んだことを実社会で実践して、知識を定着させるだけではなく、自らまちをつくるための起業を企画し、実践することへと展開してきた。この取り組みに携わった高校生と大学生が、地域にかかわるきっかけや、活動した感想、周りの反響、これからの課題などを語る。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>対談／小山竜司 × 牧野 篤 地方創生の最前線に立っていた小山氏に、地方創生の考え方や、公民館が地方創生に向けてどのような活動ができ、何をすべきかを語る。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>対談／岩本 悠 × 牧野 篤 海士町は島根にある離島で、高校生の人数が 10 年間で半数にまで減った。そのような不利な状況で、地域と高校が連携した「島前高校魅力化プロジェクト」を発足。今までデメリットだとされてきたものを強みと捉え直し、「存続を目指す」と存続しない。生徒が行きたい、保護者が行かせたいと思ひ、地域も必要だと思うような、魅力的な学校づくり」を目指し、活動を続けた結果、高校生増加へと導いた事例をもとに対談する。</p> </div>

	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>まとめトーク／牧野 篤×村松真貴子</p> <p>これまでの内容を踏まえて、住民の立場から、地方創生、地域づくりについて、公民館はどのようにすべきか、現代における公民館の存在意義とは何かなどについて語り合う。</p> </div>
2 日目	<p>【事例発表／事例研究】</p> <p>《司会》永田宏和(NPO 法人プラス・アーツ／理事長)</p> <p>《司会》牧野 篤(東京大学大学院教育学研究科／教授)</p> <p>《発表者》田中典子(福井市社北公民館／福井県)</p> <p>《発表者》河内ひとみ(大竹市玖波公民館／広島県)</p> <p>《発表者》小島一人(飯田市公民館／長野県)</p> <p>《発表者》宮城 潤(那覇市若狭公民館／沖縄県)</p> <p>《発表者》戸張道夫(三郷市立北公民館／埼玉県)</p> <p>【自由研究会／ミニシンポジウム】</p> <p>今こそ、若者(高校生)を公民館に呼び込むチャンス ～青少年の地域ボランティアサークル活動を切り口として～</p> <p>《司会》松山真理(認定 NPO 法人さわやか青少年センター／副理事長)</p> <p>《助言者》田中雅文(日本女子大学人間社会学部教育学科／教授)</p> <p>《助言者》有馬正史(認定 NPO 法人さわやか青少年センター／理事長)</p> <p>《事例発表》伊藤裕子(大田市中央公民館／島根県)</p>
3 日目	<p>【講演1】</p> <p>公民館講座のつくりかた『+クリエイティブ』という手法</p> <p>《講師》永田宏和(NPO 法人プラス・アーツ／理事長)</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>公民館が講座をつくる時の大切なポイントとして、参加や交流をさらにうながす仕組みの「不完全プランニング」を提唱。そのためには、これまでの事業やプログラムを、根元から考え直し、既成概念にとらわれず、広い視野で、違う角度から考えてみることの必要性を説く。</p> <p>さらに 2 日目の実践事例の報告を受けて、どのような工夫があるとさらに良い内容になるかなど、具体的な提案を行う。</p> </div> <p>【講演2】</p> <p>「社会」をつくる基盤としての公民館－これからの公民館の役割と課題－</p> <p>《講師》牧野 篤(東京大学大学院教育学研究科／教授)</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>さまざまな実践を踏まえながら、現代社会の人々がいったいなにを求め、いま</p> </div>

	<p>人々の考えている学習とは何なのか、そしてこれから地域社会が向かうところ、公民館が向かっているところを検討し、これからの公民館の存在意義などについて考えます。</p> <p>【総括／3日間を振り返って】 《コーディネーター》牧野 篤(東京大学大学院教育学研究科／教授) 《ゲスト》永田宏和(NPO 法人プラス・アーツ／理事長)</p> <p>この3日間で学んだことを振り返ります。また、今回のテーマである「まちづくりをベースにした地方創生と公民館の存在意義」について、改めて考えます。</p>
--	--

【相談助言・情報発信・連携協力事業の実施】

①相談助言・情報発信

日々の公民館活動のなかで「社会教育法上の適否」や「トラブル回避の方法」「活動事例」「公民館の評価」などを情報発信するとともに個別の照会に対し、電話やインターネットによる相談に対し助言を行った。また、各地の公民館で実施する研修会の開催にあたって、講師派遣の相談対応、運営に役立つ情報提供などを適宜行い、公民館機能を向上させることをもって地域社会の健全な発展を図った。

《出席した主な会議》

<p>《開催日》平成 27 年 7 月 2～3 日 《主題》講座をつくる、そして広げる～新たな視点で～ 《事業名》第 26 回福井県公民館前期セミナー 《主催》福井県公民館連合会</p>
<p>《開催日》平成 27 年 7 月 9 日 《主題》これからの公民館のあり方 《事業名》公民館長等研修会 《主催》静岡県公民館連絡協議会</p>
<p>《開催日》平成 27 年 10 月 7 日 《主題》東日本大震災から学ぶ公民館の役割と課題 《事業名》東葛飾地区研修会・主事部会合同研修会 《主催》東葛飾区公民館連絡協議会</p>
<p>《開催日》平成 28 年 2 月 5～6 日 《主題》公民館を活用した芸術文化発信事業有識者会議 《事業名》公民館を活用した芸術文化発信事業</p>

《主催》NPO 法人地域サポートわかさ

《開催日》平成 28 年 1 月 15 日

《主題》モデル公民館選定委員会

《事業名》公民館「地域のつながりづくり」実証プログラム事業

《主催》岡山県公民館連合会

《開催日》平成 28 年 2 月 14 日

《主題》さらなる住民参画と協働による自治の発展をめざして

《事業名》綾町公民館大会

《主催》宮崎県綾町 他

《開催日》複数回

《事業名》内閣府防災委員会

《主催》内閣府

《開催日》複数回

《事業名》体験の風をおこそう運動

《主催》体験の風をおこそう運動推進委員会

②国・地方公共団体・社会教育団体・機関等との連携協力

社会教育団体振興協議会の運営を通じて「社会教育関係者懇親の集い」における情報交換及び情報発信、「文部科学省と語る会」における社会教育の推進に関するディスカッションをおこなうとともに、全国の公民館の活動推進に資するために、公民館施設活用の促進について、積極的な働きかけを行った。

【地域活動支援事業の実施】

都道府県公連で実施している研修などに対して支援をするとともに、その活動状況を発信することによって公民館機能を向上させることをもって地域社会の健全な発展を図った。

- ・各都道府県公連 112 事業に対して 7,698,000 円を助成。
- ・「地域力活性化コンファレンス事業」を実施する都道府県公連に対して 600,000 円を助成した。

【公民館広報推進事業の実施】

公民館の広報活動の事例を収集・評価を行い、優良なコンテンツを表彰することによって、公民館機能を向上させることをもって地域社会の健全な発展を図る事業として、今年度はインターネットを活用して公民館活動を充実させる「インターネット活用」について行った。

今年度実施したコンクールの結果は以下のとおり。

（「全国公民館インターネット活用コンクール」の結果一覧）

種類	名称	受賞館
最優秀賞	1 館	・那覇市若狭公民館（沖縄県）
優秀賞	2 館	・松江市雑賀公民館（島根県） ・筆甫まちづくりセンター（宮城県）
優良賞	4 館	・福井市社北公民館（福井県） ・公益財団法人奈良市生涯学習財団（奈良県） ・高松市木太地区コミュニティ協議会（香川県） ・高松市香西地区コミュニティ協議会（香川県）
奨励賞	6 館	・国立市公民館（東京都） ・相模原市立大沢公民館（神奈川県） ・相模原市立横山公民館（神奈川県） ・飯山市公民館（長野県） ・白山市立松任公民館（石川県） ・瑞浪市稲津公民館（岐阜県）

※一部表示上の都合で平易な表記にしております。

【「月刊公民館」の発行】

公民館の運営に参考になる特集テーマで、地域社会の取組や専門家の論考などを紹介した「月刊公民館」を発行し、これを広く供することで公民館機能を向上させることをもって地域社会の健全な発展を図ってきた。今年度は以下の特集を組み発行した。

（月刊公民館特集テーマ一覧／通巻 695～706 号）

発行	特集テーマ	発行	特集テーマ
4 月号	はじまりは公民館から	10 月号	「まちなかカレッジ」が創る学び
5 月号	地方創生と公民館	11 月号	公民館で健康づくり
6 月号	地域で子どもを育てる	12 月号	講座づくりのデザイン（上）
7 月号	防災教育	1 月号	講座づくりのデザイン（下）
8 月号	2020 年東京オリンピック・パラリンピックへ向けて	2 月号	公民館サークル
9 月号	地域づくりと公民館	3 月号	インターネット活用コンクール

【専門資料の発行】

公民館活動を行う上で必要になる専門資料を発行し、公民館機能を向上させることをもって地域社会の健全な発展を図った。今年度は災害時の公民館における対応をマニュアル化した「公民館災害対策ハンドブック」を再発行した。

【優良公民館職員等表彰事業】

他の模範となるような優良な実績を有する公民館職員を表彰すること及び「優良公民館表彰」

で文部科学大臣表彰を受賞した公民館に、記念の楯を贈呈すること、「月刊公民館」でその活動を紹介することで公民館関係者の意欲を触発し、力量の向上を促すことによって、公民館機能を向上させることをもって地域社会の健全な発展を図った。

今年度は以下のとおりの表彰を実施した。

《優良公民館表彰及び優良公民館表彰実績》

優良公民館職員表彰	23名を表彰した。
優良公民館表彰	77館(うち1館が最優秀館、4館が優秀館)の受賞館に記念の楯を贈呈し、月刊公民館で活動を紹介した。 【最優秀館】 松江市玉湯公民館(島根県) 【優秀館】 占冠村公民館(北海道) 村山市戸沢地域市民センター(山形県) 蕨市立中央公民館(埼玉県) 佐倉市立中央公民館(千葉県)

Ⅱ 公民館総合補償制度に関する事業

【見舞金制度事業の運営】

公民館総合補償制度の中で運営し、健全な制度運営と適切な支払いに努め、以下の弔慰金および見舞金の支払いを行った。また、剰余金の一部を公益目的事業の財源に充てた。

《見舞金制度支払実績一覧》

種類		件数	支払金額	
行事傷害	急性疾病死亡弔慰金	14 件	1,400,000 円	7,375,000 円
	急性疾病入院見舞金	40 件	2,765,000 円	
	建物災害見舞金	50 件	3,210,000 円	
職員災害	職員死亡弔慰金	8 件	800,000 円	5,848,000 円
	職員入院見舞金	101 件	5,048,000 円	
合計		213 件	13,223,000 円	13,223,000 円

【災害補償保険等に係る集金事務に関する事業】

公民館総合補償制度の運営にあたり、保険会社との間で集金事務委託契約を締結し、制度掛金のうち保険料(団体災害補償保険等の保険料)相当部分の集金業務を、請負事業として実施した。当該事業で得られた利益は、公益目的事業の財源に充てた。

Ⅲ その他の事業

【永年勤続職員表彰、功労者表彰及び公連勤続職員表彰の実施】

公民館において長年勤務し、一定の成果をあげた職員を表彰し、立場を同じくする公民館職員への励みとし、同時によき模範となることにより、公民館職員の意欲を触発し、力量の向上を促すことで、公民館機能が向上することをねらって永年勤続職員表彰を行った。

また、都道府県公連における活動の活性化は、本会の目的の達成はもちろん、本会の根幹に関わるため極めて重要視している。都道府県公連に対して功労があった役職員を表彰することにより、その労をねぎらい、連帯意識の向上に資するために各種表彰を行った。

今年度の表彰実績は以下のとおり。

《永年勤続職員表彰、功労者表彰、公連勤続職員表彰実績》

種類	人数
永年勤続職員表彰	120 名
功労者表彰	7 名
公連勤続職員表彰	3 名